

テーマパークにおける体験学習に期待される学習効果 ～東京ディズニーリゾートに着目して～

三宅 史織 (生涯スポーツ学科 学校スポーツコース)
指導教員 柴田 俊和

キーワード：テーマパーク，体験学習，学習効果

1. 緒言

近年の体験学習は、歴史的な建造物を訪れて文化を学んだり、農業などの体験学習を実施したりしている学校があるが、テーマパークに訪れる学校も多数ある。テーマパークは娯楽を目的にした施設が多く、体験学習には適していないように思われる。しかし、今日「社会のディズニー化」と言われているように社会からテーマパークが注目されている。そこで、経営理念やサービスの部分を学校教育にも活かせるのではないかと考えた。

学校現場では、テーマパークで体験学習をさせることでどんな学習効果を期待しているのか興味を持ち、学校現場でなぜテーマパークでの体験学習が取り入れられているのか、どのような学習効果があるのかを明らかにしたいと本研究に取り組んだ。

2. 研究方法

東京ディズニーリゾートで体験学習を行った京都府の中学校の教職員と3年生を対象に、アンケート調査を実施した。

教職員・・・12名

3年生・・・152名

3. 結果と考察

教員のアンケート結果では、テーマパークでの体験学習の内容は、班別行動で好きなアトラクションや施設に行ったり、食事を摂ったりするというものがほとんどであった。限られた時間の中でそれぞれの班で計画を立てて行動する活動を通して、計画性や協調性を身につけさせるというねらいが主なものである。

成果については、教員全員が成果があったと回答し、班別行動がしっかりでき楽しむことができたことと、ルールや時間をしっかり守れたという理由が多かった。

教員がテーマパークの体験学習に期待していることは、集団行動が身につくこと、時間やルールを守れること、思い出づくりができることであると考えられる。

しかし今後の課題として、楽しむだけでなく学習面も必要という意見もある。

「東京ディズニーリゾート体験プログラム」では、ホスピタリティについて理解を深め、

自ら問いに気づき、答えを求めようとする過程を体験することをねらいにしている。東京ディズニーリゾートを体験学習の「場」として捉え、子どもたちが問題解決に取り組み、驚きや感動を体験できる「場」をつくる必要がある。そのために教員がテーマパークのテーマを生かした事前・事後学習をすれば、目的も明確になり、今までとは違う学習効果が期待される。

例えばホスピタリティについて生徒が事前に理解していれば、当日のパークで実際に体験し、より理解が深まる。体験学習後、体験したホスピタリティがこれからどのように活用していけるかを事後学習で学んでいく。そして、今までの体験学習では学校生活での学習効果だけであったが、一人ひとりの将来につながるような学習効果も期待される。

生徒のアンケート結果では、楽しかったと答えた生徒が93%、目的が達成できたと答えた生徒が94%、学校生活に活かされていると思うと答えた生徒が90%とテーマパークにおける体験学習に良い印象を持っている生徒が多いことが分かる。生徒が思う体験学習の目的も友達やクラスの仲を深めるという回答が多かった。集団行動を学んだという回答が多く、学校生活では時間を守ることに関心されていることが分かった。

4. まとめ

本研究で教師と生徒が持つテーマパークが楽しむ為の場所というイメージが強く、学びの場としての認識が低いことが明らかになった。

集団行動やルールを守れるようになることも体験学習の大切な学習効果ではあるが、事前・実施・事後指導における少しの工夫でテーマパークならではの学習効果が期待できる。そのためには教師が体験学習で訪れるテーマパークを学習の場として捉え、事前学習を工夫する必要があると考える。

引用・参考文献

文部科学省(2002)体験活動事例集-豊かな体験活動の推進のために-